

そして五分も経たない中に引き還して来た。

「あんたもお歸んなさい

妾はキチガヒだから、何んな事するか知れないよ」

新吉に向つて言ふ唇は引き歪んでゐた。

「歸れと言へば歸るさ」

新吉は怒つた。

俺をニセキチガヒだと思つてゐると思つた。

「本當に腹が立つわキタナラシイ、此んなものを持つて来て」とか何とか言つて、唐饅や空豆を庭へ投げ付けたのは新吉が歸つてからだつた。

文子夫人はコツプを取つて、新吉に打つ突け様としたのだ。

無想庵は苦虫を潰してゐる。

「あんたより妾の方が甚いからね。

あんたが來ると、武林の病氣が癒らないぢやないの」